

第2節 切れ目のない保健医療提供体制の推進

1 疾病・事業ごとの医療体制が求められる背景

我が国の医療提供体制は、国民皆保険制度の下で、国民が必要な医療を受けることができるよう整備が進められ、国民の健康を確保するための重要な基盤となっています。近年、高齢化の急速な進展や住民のライフスタイルの変化により、がんや糖尿病をはじめとする生活習慣病が死亡原因の上位を占めるほどに増加しています。このため、第五次医療法改正（平成 18（2006）年 6 月）による医療提供制度の取組として、がんや糖尿病をはじめとする疾病・事業ごとの医療連携体制の構築や医療機能情報の提供などが規定され、良質な医療の提供体制の確立を目指しています。

東京都においては、平成 12（2000）年に「東京発医療改革」を掲げ、「365 日 24 時間の安心の医療」の提供と「患者中心の医療」の実現に向けた取組を展開してきました。

東京都保健医療計画（平成 30（2018）年3月改定）では、療養病床及び一般病床の基準病床数を 96,491 床（平成 29（2017）年4月1日現在 105,125 床）と定めています。

2 北多摩北部保健医療圏の医療提供体制の状況

病院が 42 施設、病院病床数が 8,521 床で、人口 10 万人当たりの病床数は 1,161.7 床であり、多摩地域の 1,139.7 床を上回っています。

病床の種類別にみると、精神病床と結核病床が多く、特に結核病床数は東京都全体の4割を超えています。一般診療所、歯科診療所及び薬局数については、人口 10 万人当たりでは、いずれも多摩地域全域と比べ、やや下回っています。

当圏域には、圏域 5 市及び当圏域外の 2 市とで組織する公立昭和病院があるほか、地域医療支援病院として公益財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター（以下「多摩北部医療センター」という。）があります。また、隣接する北多摩南部保健医療圏には小児専門病院である東京都立小児総合医療センターもあります。また、独立行政法人国立病院機構東京病院や国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院など、地域での難病やエイズ治療の拠点となる病院もあります。

病院病床数

区分	東京都	多摩地域						島しょ
		北多摩北部	西多摩	南多摩	北多摩西部	北多摩南部	多摩計	
病院病床総数	128,351	8,521	6,689	17,469	4,480	11,106	48,265	54
	942.1	1,161.7	1,716.4	1,217.1	696.3	1,075.2	1,139.7	207.0
一般病床	81,363	4,322	1,833	6,138	3,320	6,131	21,744	52
	597.2	589.2	470.3	427.7	516.0	593.6	513.5	199.4
療養病床	23,921	1,793	2,237	4,131	1,091	1,422	10,674	-
	175.6	244.4	574.0	287.8	169.6	137.7	252.1	-
精神病床	22,412	2,184	2,615	7,158	63	3,446	15,466	-
	164.5	297.7	671.0	498.7	9.8	333.6	365.2	-
結核病床	510	216	-	34	-	87	337	-
	3.7	29.4	-	2.4	-	8.4	8.0	-
感染症病床	145	6	4	8	6	20	44	2
	1.1	0.8	1.0	0.6	0.9	1.9	1.0	7.7

注：下段は人口10万対

資料：東京都福祉保健局「東京都の医療施設-平成28(2016)年医療施設(動態)調査-病院報告結果報告書-」

一般診療所数

区分	東京都	多摩地域						島しょ
		北多摩北部	西多摩	南多摩	北多摩西部	北多摩南部	多摩計	
一般診療所	13,184	463	249	971	498	853	3,034	21
	96.8	63.1	63.9	67.7	77.4	82.6	71.6	80.5
【再掲】有床診療所	389	11	14	36	17	20	98	9
	2.9	1.5	3.6	2.5	2.6	1.9	2.3	34.5

注：下段は人口10万対

資料：東京都福祉保健局「東京都の医療施設-平成28(2016)年医療施設(動態)調査・病院報告結果報告書-」

3 都民の保健医療対策に関する行政への要望

東京都の「健康と保健医療に関する世論調査」（平成 29（2017）年3月）によると、行政（都や市）が特に重視していくべきだと思う医療対策（複数回答）は、「夜間・休日診療や救急医療体制の整備」51.0%、「高齢者などが長期療養のための病院や介護施設の整備」38.9%、「地域の中心となる病院の整備」36.8%、「地域の診療所と大きな病院との連携による医療機能の向上」33.5%、「高齢者の介護予防や在宅医療、リハビリテーション医療体制の整備」26.3%、「病院の医療サービスや医療費など、医療に対する情報提供を充実」22.5%となっています。

性・年代別では、「夜間・休日診療や救急医療体制の整備」は、男性で 54.5%、女性でも 47.9%、男性の 50 歳代と女性の 30 歳では 60%を超えています。「高齢者などが長期療養するための病院や介護施設を整備する」は女性で 43.8%と高く、女性の 60 歳代と 70 歳以上では 60%前後となっています。

4 都民が最初にかかる医療機関等

東京都の「健康と保健医療に関する世論調査」（平成 29（2017）年3月）によると、「最初に受診する医療機関」については、「近くの医院・診療所」が 71.3%と最も多く占めています。

最初に受診する医療機関が「かかりつけの医療機関かどうか」については、「はい」70.0%、「いいえ」28.3%となっています。

実施主体	具体的な施策（取組目標）
市民	◇がん治療に関する理解を深める
市	◇拠点病院や協力病院の取組の把握、住民への情報提供 ◇地域がん登録 ¹ の周知
医療機関	◇地域がん診療連携拠点病院を中心に高度ながん医療を提供するとともに、がん診療の連携体制を構築し、患者が納得できる切れ目のない医療提供 ◇相談支援や情報提供の充実とともに、治療の初期段階からの緩和ケアの推進など、患者・家族の療養生活の質の向上 ◇全都統一の地域連携クリティカルパスの活用などによる拠点病院を中心とした地域連携体制の構築 ◇拠点病院及び協力病院を中心とした医療従事者向けのがんの早期診断や緩和ケア、専門研修の実施 ◇標準登録様式による地域がん登録の実施 ◇適切に診断や検査等ができる診療体制の確保
保健所	◇患者会や家族会に関する情報提供、支援

▶ 保健医療の指標

項目	方向・目標値	把握方法
がんの年齢調整死亡率（人口10万人対）	下げる	事業実績より把握

北多摩北部保健医療圏における地域がん診療連携拠点病院・東京都がん診療連携協力病院（平成29（2017）年）

地域がん診療連携拠点病院	東京都がん診療連携協力病院	
	対象となるがん種	
公立昭和病院	大腸・前立腺	公益財団法人 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター
	肺・大腸・乳	公益財団法人結核予防会 複十字病院
	肺	独立行政法人国立病院機構 東京病院

がん情報さがしの10カ条

（国立がん研究センターがん対策情報センターホームページより）

1. 情報は「ガ」。あなたの療養を左右することがあります。活用しましょう。
2. あなたにとって、いま必要な情報は何か、考えてみましょう。
3. あなたの情報を一番多く持つのは主治医。よく話してみましょう。
4. 別の医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を活用しましょう。
5. 医師以外の医療スタッフにも相談してみましょう。
6. がん拠点病院の相談支援センターなど、質問できる窓口を利用しましょう。
7. インターネットを活用しましょう。
8. 手に入れた情報が本当に正しいかどうか、考えてみましょう。
9. 健康食品や補完代替医療は、利用する前によく考えましょう。
10. 得られた情報をもとに行動する前に、周囲の意見を聞きましょう。

国立がん研究センターがん対策情報センター
<https://ganjoho.jp/public/index.html>

¹ がん登録：都における正確ながんの実態を把握する目的で、がんの患者数、罹患率、生存率及び治療効果等のデータを集積する。

脳卒中

脳卒中は脳血管が詰まったり破れたりして、その先の組織が壊死して脳の機能障害を引き起こす疾患です。急性期を脱しても、継続的な治療を要することが多く、また、後遺症として片麻痺、嚥下障害、言語障害などが残ることがあり、長期のリハビリテーションを要します。

当圏域における脳血管疾患の年齢調整死亡率（間接法）は男性 65.0、女性 65.4（平成27（2015）年）となっています。

脳卒中の最大の危険因子は高血圧であり、発症の予防には高血圧のコントロールが重要です。また、糖尿病、脂質異常症、不整脈、喫煙、過度の飲酒なども危険因子であり、生活習慣の改善や適切な治療が重要です。

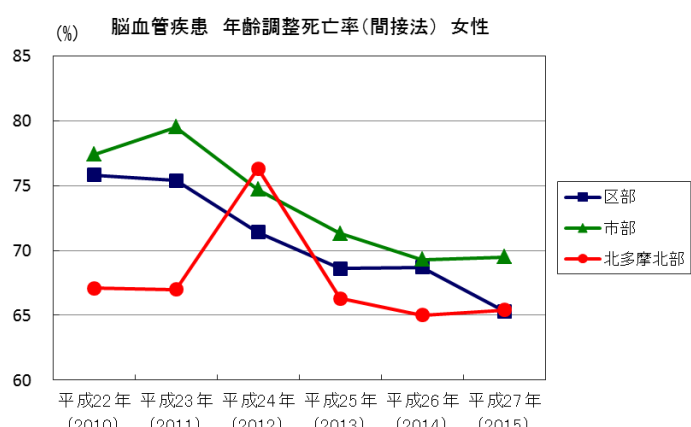
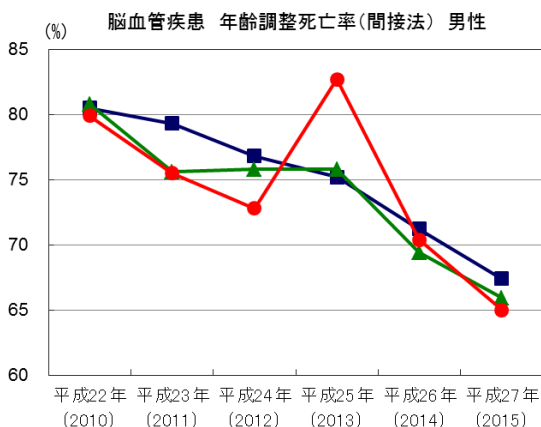
※生活習慣の改善については、以下を参照

第2部 各論 第1章 健康づくりと保健・医療・福祉の推進

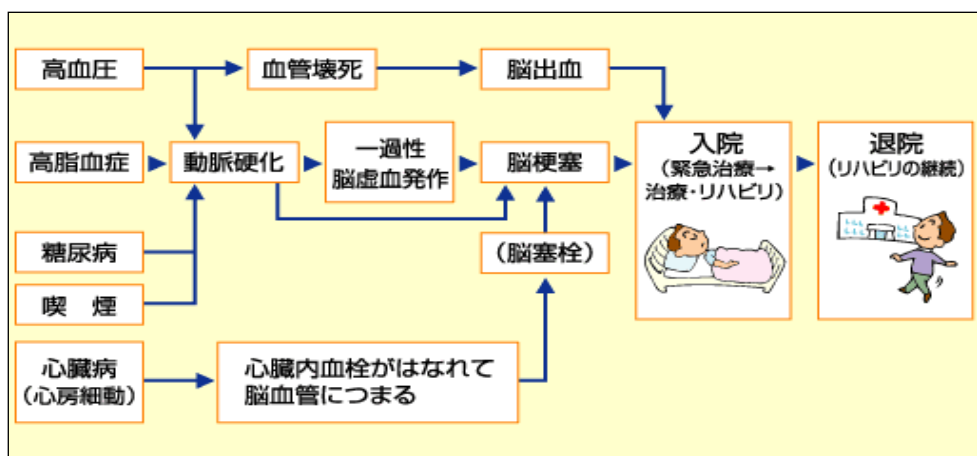
第1節 生涯を通じた健康づくりの推進

1 健康づくりの推進（55 ページ）

2 たばこによる健康影響の防止対策（64 ページ）



脳卒中にかかるまでとかかってからの経過



(厚生労働省ホームページより)

当圏域では、平成19（2007）年より医療連携について具体的な検討を始めました。医療機関と保健所、市などの関係機関による検討会を設置し、①各医療機関の脳卒中に係る医療機能の把握や脳卒中医療連携リストの作成及び関係医療機関への配布、②急性期から回復期・在宅療養に至るまでの連携体制の構築・推進、③地域連携クリティカルパス¹の作成、④当圏域内の脳卒中医療連携に関する情報の共有化、⑤住民及び医療従事者に対する脳卒中に係る普及啓発活動など、具体的な取組を行っていきます。

実施主体	具体的な施策（取組目標）
市民	<ul style="list-style-type: none"> ◇脳卒中の特徴やクリティカルパスの内容を理解 ◇生活習慣に留意、発症予防への心がけ ◇当事者による患者会や家族会への参加、情報収集
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ◇各医療機関の脳卒中に係る医療機能の把握 ◇脳卒中医療連携リストの作成及び関係医療機関への配布 ◇急性期から回復期、在宅療養に至るまでの連携支援 ◇t-P A治療（血栓溶解療法）や脳血管内治療に関する取組 ◇地域連携クリティカルパスの活用 ◇当圏域内の脳卒中医療連携に関する情報の共有化 ◇患者会や家族会に関する情報提供、支援
介護保険事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◇在宅療養に至るまでの連携強化、支援
消防署	<ul style="list-style-type: none"> ◇東京消防庁病院端末装置の活用による搬送体制の充実
市	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域住民に対する脳卒中に係る普及啓発活動 ◇在宅療養に至るまでの連携支援 ◇患者会や家族会に関する情報提供、支援
保健所	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域の医療資源の整備状況等を踏まえた、医療機関相互の連携による脳卒中医療連携システムの構築・推進 ◇患者会や家族会に関する情報提供、支援

➤ 保健医療の指標

項目	方向・目標値	把握方法
脳卒中の年齢調整死亡率（人口10万人対）	下げる	事業実績より把握

¹ 地域連携クリティカルパス：急性期から維持期まで切れ目のない医療を受けられるよう診療計画書として医療機関等で共有して用いるもの。

糖尿病

都の糖尿病有病者の割合を見ると、男性 20.3%、女性 11.8%となっています。また、糖尿病予備群の割合は、男性 11.0%、女性 14.7%となっています。

糖尿病を予防するためには、食生活や運動など望ましい生活習慣について理解し、実践することが必要です。糖尿病になり、血糖値が高い状態が持続すると、心筋梗塞や脳卒中のリスクが高まるほか、糖尿病腎症による透析、糖尿病網膜症による失明、血管障害、末梢神経障害・壊疽など深刻な合併症につながるおそれがあります。

また、メタボリックシンドロームを放置すると、糖尿病の発症や重症化を引き起こす可能性が高いとされています。

※生活習慣の改善については、以下を参照

第2部 各論 第1章 健康づくりと保健・医療・福祉の推進

第1節 生涯を通じた健康づくりの推進

1 健康づくりの推進（55 ページ）

2 たばこによる健康影響の防止対策（64 ページ）

当圏域では、平成 21（2009）年より医療連携について具体的な検討を始めました。医療機関等と保健所、市などの関係機関による検討会を設置し、各医療機関の糖尿病に係る医療機能の把握や糖尿病医療連携リストの作成及び関係医療機関への配布、糖尿病を専門としない医療関係者に診療支援ツールを作成し、早期の受診・治療・治療の継続に向けた啓発を行うなど、当圏域内の糖尿病医療連携に関する情報の共有化を図ってきました。

さらに、糖尿病医療連携ツール等を活用し、多くの医療機関が同じ治療方針の下、患者の症状に応じた医療連携が行われるよう、事業を推進していきます。

この他、糖尿病医療連携の一環として、医科と歯科との連携に基づく歯周病治療の取組により、口腔機能の向上と全身状態や生活の質の向上をさらに推進していきます。

糖尿病を放置した場合に起こる合併症

- 糖尿病性網膜症
- 糖尿病性神経障害（手足のしびれや壊疽など）
- 脳卒中（脳梗塞）
- 糖尿病性腎症
- 心筋梗塞
- 下肢閉塞性動脈硬化症
- 歯周病
- その他、皮膚の病気や感染症など

実施主体	具体的な施策（取組目標）
市民	<ul style="list-style-type: none"> ◇糖尿病の特徴を理解し、生活習慣に留意 ◇糖尿病医療連携ツールの内容を理解 ◇当事者による患者会や家族会への参加、情報収集

医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ◇各医療機関の糖尿病に係る医療機能の把握 ◇糖尿病の地域連携登録医療機関への登録 ◇糖尿病医療連携ツールの活用 ◇当圏域内の糖尿病医療連携に関する情報の共有化 ◇病院管理栄養士等による食事に関する相談・指導 ◇医科と歯科の連携の推進 ◇患者会や家族会に関する情報提供、支援
事業者・医療保険者	<ul style="list-style-type: none"> ◇糖尿病腎症などへの重症化を予防する取組
市	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域住民に対する糖尿病に係る普及啓発活動 ◇管理栄養士等による食事に関する相談・指導 ◇糖尿病腎症などへの重症化を予防する取組 ◇患者会や家族会に関する情報提供、支援
保健所	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域の医療資源の整備状況等を踏まえた、医療機関相互の連携による糖尿病医療連携システムの構築・推進 ◇地域の管理栄養士等への支援 ◇患者会や家族会に関する情報提供

▶ 保健医療の指標

項目	方向・目標値	把握方法
糖尿病の地域連携登録医療機関数	増やす	事業実績より把握

コラム

糖尿病医療連携の取組（地区医師会、地区歯科医師会、各医療機関）

都では、都内全域を視野に、予防から治療までの一貫した糖尿病対策を推進し、都民の誰もが身近な地域で、症状に応じた適切な治療を受けられる医療連携体制の構築を推進しています。糖尿病地域連携の登録医療機関は、「東京都糖尿病医療連携ツール」を活用しながら、「かかりつけ医」「専門医」「かかりつけ眼科医・歯科医等」のいずれか又は複数の立場で、症状に応じた適切な医療連携を行い、患者さん一人ひとりに合った療養指導を行っています。

当圏域においても、糖尿病ネットワーク委員会が設置され、患者の症状に応じた適切な医療機関の紹介・逆紹介（返送）や、医療介護従事者向け研修会、都民向け公開講座などが開催されています。

特に、夜間や休日における小児の救急医療の充実・強化が緊急かつ重要な課題となっていました。現在、小平市健康センターにおける小平市医師会応急診療所、4市（東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）と5地区医師会では多摩北部医療センターと医療法人社団時正会佐々総合病院と協働で「北多摩北部地域平日夜間小児救急医療事業」について協定を交わし、平日準夜間小児救急診療が実施されています。この他、各市では、休日応急診療所や休日夜間急患センターを設置しています。

歯科については、休日歯科診療事業が各市で実施されています。

耳鼻咽喉科及び眼科については、東京都が広域的に医療を確保しています。

2 救急に関する相談や案内窓口

東京消防庁では、救急相談センター（#7119）が、従来の医療機関案内に相談機能を付加して、平成19（2007）年6月から「救急相談センター」として運用を開始しました。また、平成24（2012）年4月からはホームページ上で電話救急相談に準じた「東京版救急受診ガイド(web版)」を掲載しています。これは、主な19の症状について、利用者の方自らが症状をチェックしていくことで、傷病の緊急度などに関するアドバイスが得られるサービスです。救急車を呼ぶべきか否か迷っている都民の不安を解消するとともに、救急車の適正利用を図ります。

小児救急医療では、厚生労働省が都道府県に設置した「子供の健康相談室」（小児救急電話相談#8000）において、平日夜間及び休日の電話相談を実施し、子供の健康に関する不安を解消し、救急医療機関にかかる前の段階での安心の確保を目指しています。

3 関係者及び市民による救命技術の向上

救急隊員の資質を向上させ、医学的観点から応急処置等の質を保障することにより、救命効果の向上と救急業務に対する信頼を更に高めることを目的に、平成14（2002）年、東京都医師会・救急医療機関・東京消防庁・東京都福祉保健局などからなる「東京都メディカルコントロール¹協議会」が設置されました。協議会では、救急隊員に対する指示や指導・助言に関する事、救急処置基準に関する事などの専門的な検討を行っています。

市民向け救命講習会も盛んに行われており、特に、心肺蘇生に有効なAED（自動体外式除細動器）の設置が公的機関を中心に進められていることに伴って、施設職員や市民参加によるAED救命技能認定講習会が各地で実施されています。

4 北多摩北部保健医療圏の現状

北多摩北部保健医療圏における救急告示病院・診療所は、18か所（平成29（2017）年12月現在）です。隣接する二次保健医療圏では、北多摩西部保健医療圏が14か所、北多摩南部保健医療圏が19か所となっています。

当圏域内を所管する消防署（小平消防署・東村山消防署・清瀬消防署・東久留米消防署・西東京消防署）が、平成28（2016）年中に出動した件数は36,649件（約14分

¹ メディカルコントロール：病院前救護において、救急現場から救急医療機関に搬送されるまでの間、救急救命士の活動等について医師が指示、指導・助言及び検証することにより、病院前救護の質を保障すること。

握している情報と合わせて、地域の医療・介護関係者と共有する。

イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行う。

ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と介護が一体的に提供される体制の構築に向けて、必要な具体的取組を企画・立案する。

エ 医療・介護関係者の情報共有の支援

情報共有の手順等を含めた情報共有ツールを整備するなど、地域の医療・介護関係者間の情報共有を支援する。

オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療と介護連携を支援する相談窓口の設置、運営を行い、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの、在宅医療、介護連携に関する事項の相談の受付を行う。

また、必要に応じて、退院の際の地域の医療関係者と介護関係者の連携の調整や、患者・利用者又は家族の要望を踏まえた、地域の医療機関等・介護事業者相互の紹介を行う。さらに、相談対応の窓口やその役割が関係者等に明確に理解されるよう、「在宅医療・介護連携支援センター」等の名称を設定し、関係者等に周知する。

カ 医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を実現するために、多職種でのグループワーク等の研修を行う。また、必要に応じて、地域の医療関係者に介護に関する研修会の開催、介護関係者に医療に関する研修会の開催等の研修を行う。

キ 地域住民への普及啓発

在宅医療や介護に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する。

ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

複数の関係市区町村が連携して、広域連携が必要な事項について協議する。

コラム

多職種連携研修等による顔の見える関係づくり（各市、地区医師会等）

各市や地区医師会が中心となり、切れ目ない医療提供体制の構築に向け、医師・看護師・ケアマネジャー等在宅療養を支える様々な職種が参加する研修会を開催し、円滑な連携を推進しています。

病院を会場にした研修会を開催し、在宅ケアスタッフが病院の機能の理解を深めたり、ワールドカフェ方式[※]で様々な職種と意見交換し、課題の共有や役割の理解を深めるなど、医療・介護関係者の顔の見える関係構築が進んでいます。

[※]ワールドカフェ方式：カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマについて対話を行う会議形式。メンバーの組み合わせを変えながら話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる。

コラム

「きよせメディケアnet創設」 (清瀬市)

清瀬市では地域包括ケアシステムを構築するに当たり「医療と介護の連携」が重要課題であると考えました。平成26(2014)年よりネットワークの構築に向け、専門的かつ実務的な意見交換を行いました。

市が中心となり、市民が多数通院する市内外の大規模病院の地域連携室や介護支援のスタッフ、行政職員等に働きかけ、ワールドカフェ方式で意見交換を続けました。そうした中、医療機関・介護関係者がそれぞれ入退院時、よりスムーズに連携を図りたいという希望があることがわかり、お互いが使いやすいツールが必要との意見がまとまりました。

まずは入院時のシートを作成することとなり、その結果「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」が完成しました。運用試行を経て、現在では北多摩北部保健医療圏で活用されています。

コラム

看取りへの取組 (小平市)

小平市では、在宅医療介護連携推進協議会において「人生の最終段階～看取りに対応するために」をテーマにワールドカフェ方式による話し合いを行い、その後「小平で安心して、いきで、いく」をテーマに人生の最終段階における看取りを支えるために多職種連携研修や市民向けセミナー等の取組を進めています。

また、民間団体やNPO法人においても、「人生の最終段階をどう迎えますか」をテーマに在宅での看取りを支える医師や肉親を看取った家族がシンポジストとなり、市民公開シンポジウム(白梅学園大学小平学・まちづくり研究所主催)や、少人数の住民がミニ講座やグループワークを通して「住み慣れたところで安心して生きること、死ぬことを考える」勉強会(ケアタウン小平主催)など、終末期や在宅での看取りの理解を深める取組が行われています。